

# 活動報告書

報告者氏名： 井上賞子 所属： 松江市立意東小学校 記録日： 28年 2月 11日

○キーワード： 自分の学び方を次のステージにつなげるための取り組み  
「読み・書きの困難」「教科学習」「移行支援・ノートテイク・宿題」

## 【対象児の情報】

○学年 6年→中学1年

○障害名 読み書きの困難、コミュニケーションの苦手さ

○障害と困難の内容

- ・知的には高いがコミュニケーションの課題が大きく、激しい不適應状況も見られる。
- ・読み、書きに特異的な困難がある。苦手意識も強く、取り組みへの抵抗も大きい。
- ・学習への見通しが持ちづらく、定着への取り組みが継続しにくい。

## 【活動目的】

○当初のねらい

### ☆6年時

- ・代替え手段を持つことで、学びやすさを支え、学習機会を保障していく。
- ・中学進学後も学びの支えとなる方法を身につけさせる。

### ☆中学1年時

・中学の学習環境の中で、小学校時代に身に着けたスキルを、対象生徒にとっての学びやすい方法へ展開していく。

○実施期間 平成26年4月から平成28年2月 ○実施者 井上賞子

○実施者と対象児の関係

☆6年時は担任として

☆中学入学以降は、小中一貫の取り組みの中で、中学と連携をとりながら地域の支援者の一人として

## 【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・計算は早く正確。 ・記憶力が優れており、将棋の棋譜や県名や国名などは、正確にたくさん覚えている。
- ・見通しの持てた活動は、集中して取り組む。 ・書きに困難があり、整った文字を書くことは難しい。
- ・読みに困難があり、今までの失敗体験もあって、読むことへの抵抗感が大きい。
- ・コミュニケーションに苦手さがあり、自分の思いを言葉にしたり、周囲と思いを伝え合ったりすることに課題がある。

※理解力も高く、学年の内容の学習が可能な状態でありながら、従来の学習方法では苦手さの大きい部分が壁になり、学習機会の保障が図られていなかったと思われる。

○6年時の活動の具体的内容その①～ iPadを活用しての取り組み～

①「読み」の底上げと見通しを支えるツールとして→「VoiceOfDaisy」「i暗記」「例解学習国語辞典」

[漢字ドリル]「Safari」を活用

②「書き」の見通しを支えるツールとして→「小1かん字ドリル 楽しく学べる漢字シリーズ」「camera」

③考えをまとめるツールとして→「SimpleMind+」「7notes」

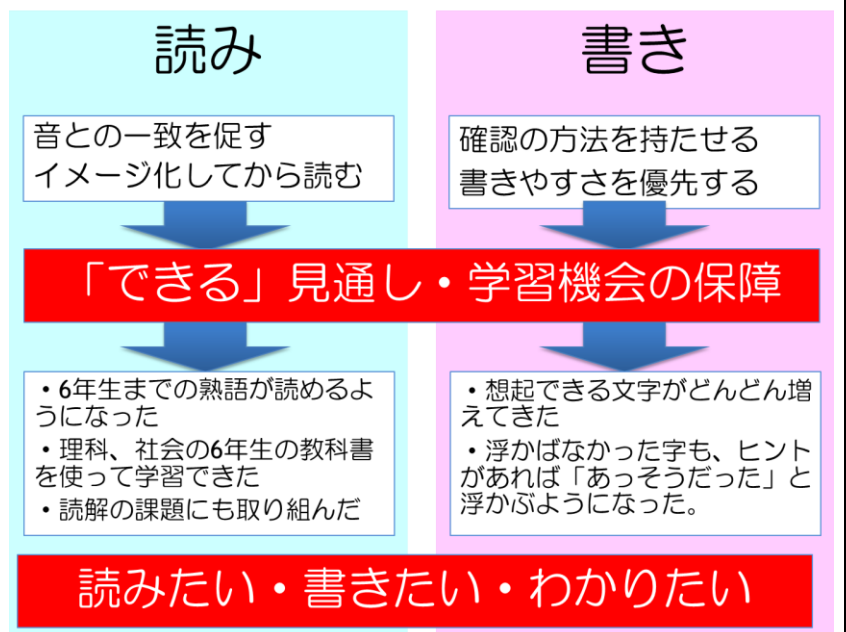
④思いを伝え合うツールとして→「ByTalk」を活用



## ○対象児の事後の変化

- ・手だてを持つことで、6年生の理科、社会、算数に取り組み、理解することが出来た。
- ・苦手だった漢字で力をつけ、読みでは学年相当の熟語が読めるようになったことで、読み上げがなくても短い文章であれば自分で読み進めることが出来るようになった。
- ・書ける漢字も増えたが、整った文字を書くことには苦手さが大きいため、文章にまとめる際はキーボードも活用した。
- ・不適応行動は見られなくなり、安定して学習することが出来るようになった。

※詳細な内容については、魔法のワンド成果報告書をご参照いただきたい

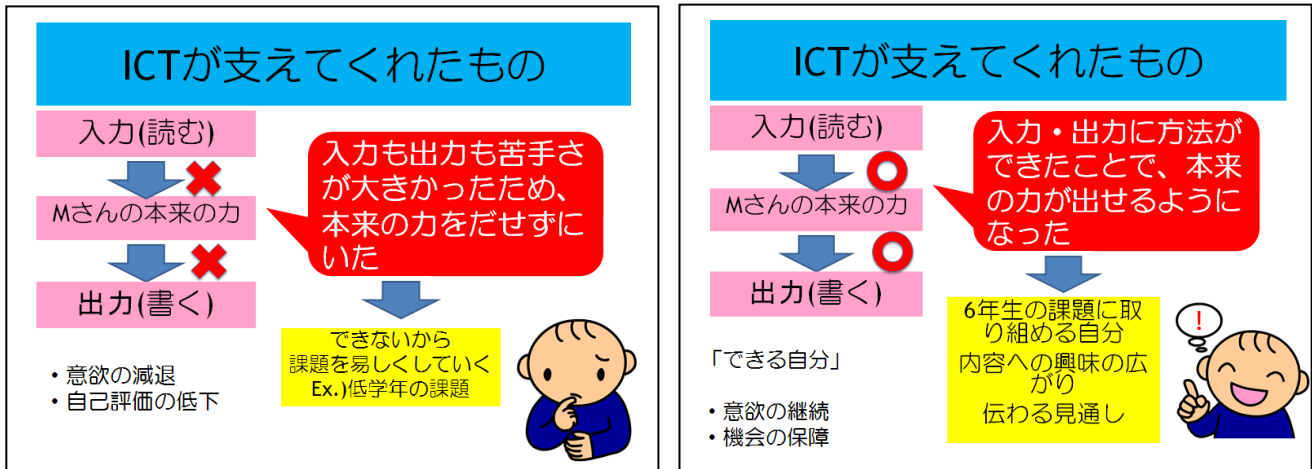


## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ○報告者の主観的気づき

☆方法を持たたことで、学習の機会が保障され、対象児童の本来の力が発揮できるようになったのではないかと

☆「学べる自分」への見通しが、学習への意欲を支えたのではないかと



## ○主観的気づきに関するエビデンス

### ①「読み」の底上げと見通しを支えるに関して

・熟語が読めるようになってきたことで、文章の量や内容によっては、読み上げがなくても読解に取り組めるようになってきている。右は「→で解答」という方法をとって取り組んだ読解プリントだが、図1くらいの文章量であれば、あっという間に正解を示すことができる。図2の文章量であっても、じっくり考えて読み返ししながら、1人で正解を導くことが出来る。いずれも初見の文章である。

・社会や理科のテストに、1人で取り組めるようになって

きている。自学年の課題であっても、短い文章であれば自分で読んで解決しようとする。読めない熟語があった場合でも、前後の関係を見ながら意味を推察する様子も見られた。

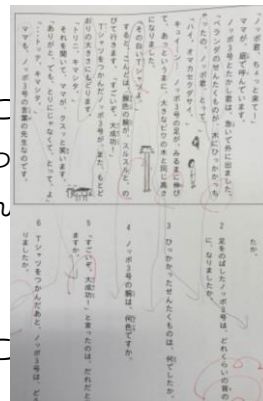


図2 矢印解答プリント②

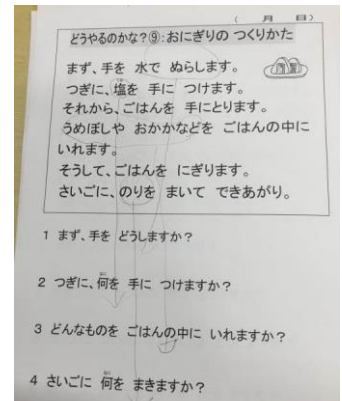


図1 矢印解答プリント①

## ②「書き」の見通しを支えるに関して

- ・求められていない場面でも、漢字で書こうとすることが増えてきている。
- ・図3は、赤丸の部分は漢字で書くことを求めなかったが「ここは漢字でしょう」と言って書き始めた。

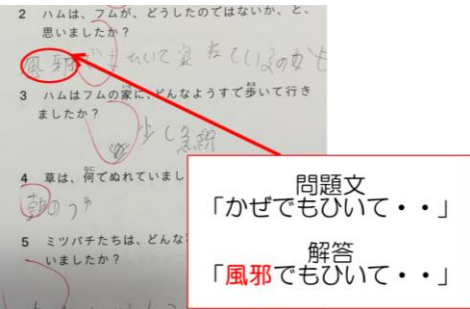


図4 求められていない部分も漢字で②

- ・図4では、問題文には平仮名で書かれていた部分を自分で漢字に変えて答えている。
- ・担任がひらがなを使うと「何で漢字を書かんの?」と聞いてくるなど、「漢字の部分は漢字で」という意欲を随所で感じるようになってきている。

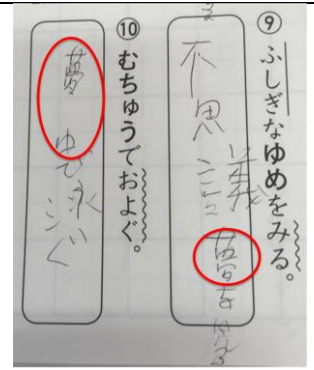


図3 求められていない部分も漢字で①

## ③「考えをまとめる」に関して

卒業文集を書いていた時、「将来の夢」について文章を書くことがあった。その際、ヒントになるように「行ってみたいところ」「してみたいこと」「つきたい仕事」「食べてみたいもの」などの項目を挙げて解答例もつけて提示したが「なにもない」といって書こうとしなかった。「じゃあ、「今はない」ということを書いてはどうだろう」と提案すると、納得して書き始めた。自分の思いを言葉にすることに対しては、依然として慎重な様子が見られるが、納得したことや客観的な事実に対しては、文章化することができるようになってきている。右の図5は、デジラーで教科書を提示しながら、パソコンに入力して答えている場面である。手掛かりを持つてのまとめや要旨の入力は、正確で素早くできるようになってきている。

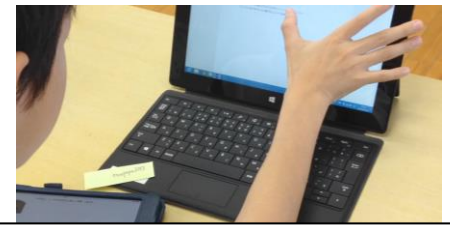


図5 パソコンで要旨をまとめている様子

## ④[思いを伝え合う]に関して

3学期の始め、訪問指導での授業公開が予定されていた。本児の思いや状況によって中止することも視野に入れていたが「あなたががんばっていることをたくさんの先生に見てほしいと願っている」ということを予告していたこともあり、前日までは本人もやる気でした。しかし、当日、不安になったようでメッセージが送られてきた。それは母親のアドレスから送られており、担任も母親が書いていると思って返答していたが、実は本人が書いたものだった。不安な気持ちやそれでも何かできることはしたいと交渉する姿を、後から見返して、驚いた。結局30分ほどやり取りをした後登校してきたが、とてもすっきりした表情で、納得して授業に向かっていた。彼がこの思いを対面で伝えることは、まだ難しいのかもしれない。しかし、メッセージで伝えると

いう方法を持っていたことと、母親の姿をかりたことで、それが可能になったのだと感じた。自分の思いを伝え、相手の意見を聞いて考え、対案を提案して交渉する。方法を持つことで彼の世界は広がってきていると感じている。

訪問指導当日の朝、お母さんのアドレスからメッセージがとどいた。後で聞いたら書いていたのは本人

行くの遅くなります

頭痛いそうなので3時目に行きます

3時目勉強じゃないことしか出来ませんのでそれをお願いします。

よろしくお願いします

勉強は無理です。勉強以外のことならやるそうです。

iPadかパソコンならやるそうです。

それか何とかバスケット

いない方がいいそうです。

また気がいい時にして下さい。

よろしくお願いします

中学の先生は来てもらっていいそうです。

**不安な思い** → **これならできるかも→交渉へ**

自信のある活動 参観者の人数と対象

今から向かいます

※ここまでを昨年度の魔法のワンドで報告している。

## ○6年時の活動の具体的内容その②～Windowsタブレットを活用しての取り組み～

⑤自己解決の拠り所としてのノートテイク→「OneNote」「PowerPoint」を活用



### ○対象児の事後の変化

⑤を通じて、中学進学後にも使える手だてとして、ノートテイクを支える

☆①～④までの取り組みを通じて、対象児童にとってICTの活用は、学習のスタートラインに立つためにも必要なことだと実感した。しかし、学習の支えとしてアプリを活用するというのは、その時々課題に合わせて必要なアプリを探したり授業の中への組み込み方を検討したりということが必要になり、学習内容が膨大になっていく中学では、なかなかその都度の検討は難しいのではないかと思われた。また、教科担任制になることを考えると、どの先生とも情報が共有できる状態でないと厳しくなるだろうと予測されたため、

- ・学校で一般的に使われているWindowsを使って
- ・どの学習内容であっても活用できるノートテイクへの取り組みを試みた。

☆対象児童は、これまでノートテイクをほぼしたことがない状態であった。②の取り組みの中で、漢字の書字についてはずいぶん上がってきていたが、巧緻性の困難もあり、「読み返せるように書く」こと自体のハードルが高いということには変わりがなかった。一方で入力については、日常的に家庭でもパソコンを使っていることもあり、ローマ字での入力は、巧みで正確にできるため、onenoteにキーボードで入力していくことを軸にノートテイクを試みていった。

☆ノートテイクに求めるもの

- ・情報の整理

「こういうことか」

- ・思考の整理

「だからこうなるよね」

- ・既習事項の確認

「ここを見ればわかるよ」



☆国語、算数、理科、社会のnoteを作成し、以下に取り組んだ。

- ①調べたことをまとめる
- ②したことを記録する
- ③まとめのプリントに取り組む
- ④参照ページのリンクを管理する

なんの教科のノートかを表示

単元ごとにタブをわける

図6 OneNoteで作成した理科ノート

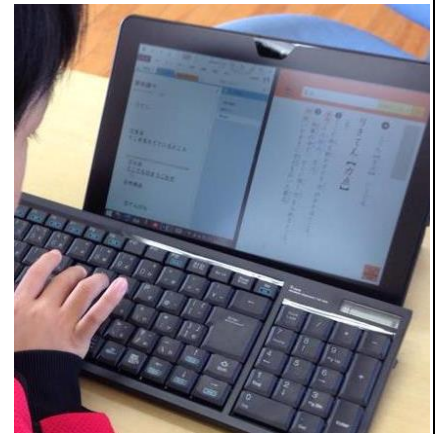
内容ごとにページをわける

## ①調べたことをまとめる



図 7 資料集を見ながら、時代ごとの人物の写真を取り込み、名前を調べてまとめていく様子。

図 8 辞書アプリと OneNote を同時に起動し、意味を調べてはノートに書き写していく様子。



ワークシートは、PowerPoint のスライドマスターの機能を使って作成

- ・スライドマスターで作成することで、同じシートがすぐに出せる。
- ・「写真」をクリックするとカメラロールにとび、「時代」「名前」「キーワード」などはクリックすると表示が消えるため、作業の効率がいい。

※そうかチャート参照

<https://www.youtube.com/watch?v=JgYsKIPDxb8>

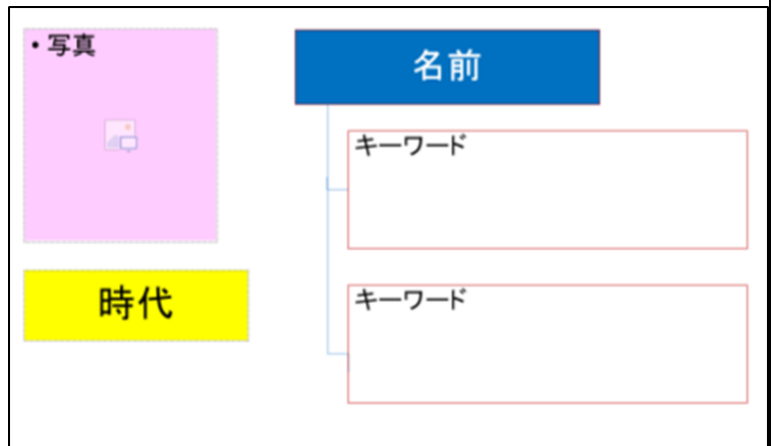


図 9 ノートテイクの様子

- ・写真をカメラロールから呼び出し
- ・資料を見ながら「時代」「名前」「キーワード」についてまとめていく
- ・できたらスライドショーを実行してスクリーンショットをとり、OneNote に張り付けていく。

学習したことをノートにまとめていくという作業を通じて、内容の定着が進んでいく姿が見られた。特に社会や理科では、用語と事柄を関連させて覚えていくことができるようになっていった。

担任が出張で不在の時、自習監督の先生に「問題出すよ。日本で一番昔の女王の名前は？ 不平等条約を改正した外務大臣は？」と自分から質問し、「こんなに簡単じゃん」とにこにこ話すこともあった。そうした姿からは、知識が増えていくことが嬉しくて、誰かと共有したいという気持ちがうかがえた。

また、意味調べを宿題に出した際、「蒸発皿」という言葉が、タブレットにいれておいた小学生用の国語辞典では出てこないということがあった。すると、

→そのままでは出てこなかったから、「蒸発」と「皿」で調べてくっつけた

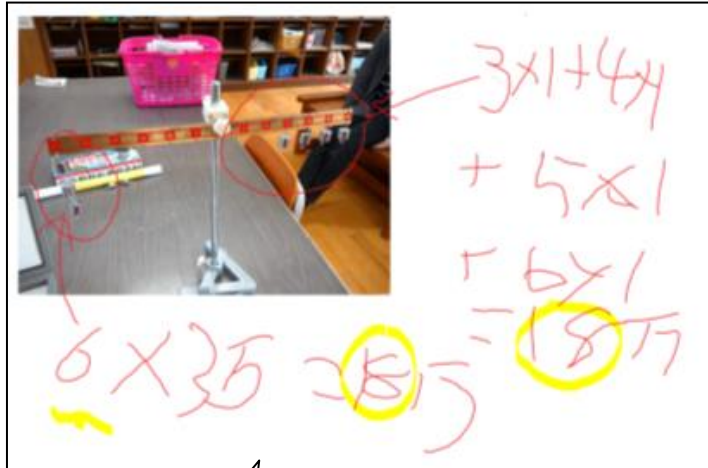
→でもそうしたらなんか変だったから、結局ネットで検索して調べた

と、解決の方法を自分なりに工夫していた。

こうした学習姿勢の変化は、色々な場面で感じられるようになっていった。「調べる」という学習の積み重ねの中で、「自分で解決できる」という見通しをもてたことが、「辞典にのってなかった」で終わらせず次の方法への模索につながったのではないかと感じている。

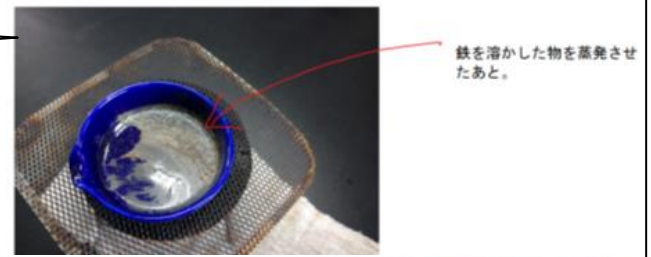
## ②したことを記録する

画像とテキストで



写真と手書きで

板書の記録



最初は「全てテキスト入力で」と考えていたが、写真への書き込みなどは、好んで手書きを使う様子が見られた。確かに手書き文字だと見返した時にわかりづらいが、写真があることで情報が補完され「3のところに1こと4のところに1こと5のところに1こと6のところに1ことだから・・・」と、次の時間に確認しても説明することが出来ていた。

内容や場面に応じて、自分でテキストと手書きを使い分ける様子も見られるようになっていった。

## ③まとめのプリントに取り組む

- ・アカウントを共有しておくことで、事前に対象児童のOneNoteにプリントを張り付けておく。
- ・キーボードで入力して解答する。

キーボード入力で解答することによって、あとから見返しやすいう状態にできたので、テスト前の振り返りなどは、このページを見て確認の様子が見られた。

理科 > 100220268 新しめの中心1 植物の体の働き 10/26 生き物の暮らしと環境 動物の体の働き 2014年11月4日 更新

11 右の図のようなしくみを使って、おもりを持ち上げました。これについて次の問いに答えなさい。

(1) このようなくみを何といいますか。

(2) 図の①、②、③の点を何といいますか。

(3) おもりを楽に持ち上げるには、④の点の位置をどちらに動かせばよいですか。「左」か「右」で答えなさい。

(4) ①の点の位置を変えないでおもりを楽に持ち上げるには、⑤の点の位置をどちらに動かせばよいですか。「左」か「右」で答えなさい。

(5) 図の⑥の点と⑦の点の位置を変えないで、⑧の点を⑨の点に近づけると、⑩の点に加える力の大きさはどうなりますか。次から選びなさい。

ア 大きくなる イ 小さくなる ウ 変わらない

11	てこ	12	①	作用点	13	支点
14	②	力点	15	左	16	右
				17	ア	

## ④参照ページのリンクを管理する

- ・練習問題のページなど、授業で見たりとりくんだりしたページのリンクをはりつけておくことで、いつでも確認することが出来る。

自習時など、復習課題にリンク先のページの演習を入れておくと、自分でつないで課題に取り組む姿が見られた。

挑戦問題  
2014年11月4日 22:54

NHK FOR SCHOOLのユニット  
<http://www.nhk.or.jp/school/dcontent/rika6/>

<http://kids.yahoo.co.jp/study/drill/#shou6>

ヤフーキッズ

※キーボードを使って入力していったことと、OneNoteのページのタイトルわけによって、既習事項の確認が容易になった。そのことにより、「ここを見ればわかる」という安心感が出て来ている。どの教科でも「意味調べ」を学習の最初に持ってきたので、学習中にわからない言葉があると、「意味調べのページ」を見て確認する姿も見られた。また、キーボード入力は得意なので、作業が早く学習の進度が保たれている。教科内容が違って、操作が同一なので取り組みやすいようだった。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ○報告者の主観的気づき

☆入力という方法が持てたことで、ノートテイクを通じての学び方に見通しが持てたのではないかと

☆キーボード入力を軸にしたことで書きへの負担が減り、ノートテイクができやすくなったのではないかと

### ○主観的気づきに対するエビデンス

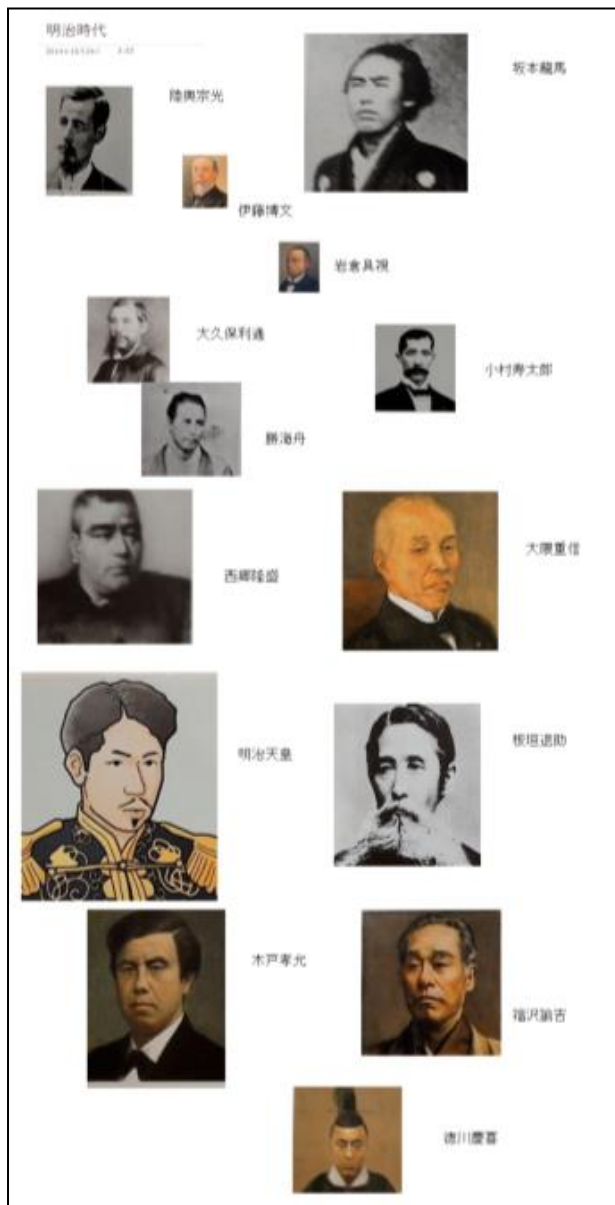
#### ・学びへの見通しに関して

右の写真は、水溶液の単元の実験の際、交流級の集団に入って学習している時の様子である。

高い理解力を持ちながら、長い時間その力を出せずにいた対象児は、「みんなが出来ることが自分だけ出来ない」と様々な場面で体験してきた。そのため、以前は、他の子の中で1人違うことをすることを極端に嫌がっていた。それが、スムーズにタブレットを持ち込んで、一斉の指示を聞きながら自分でまとめていた。他の子が理科ノートにまとめていくのと同じようにOneNoteにまとめていく姿からは、「自分の学び方」への納得と、「この方法があれば、みんなと同じように学べる」という自信が感じられた。



#### ・負担が減ることでの学習姿勢の変化に関して



左の写真は明治時代の重要人物を書きだしたページである。教科書や資料集から写真を取り、そこに人物の名前を打ち込んでまとめていくのだが、打ち込みながら写真の大きさを調整して楽しんでいる様子が見られた。「どうして伊藤博文をこんなに小さくしたの？」と聞いても「さあね」とにこにこしながらはぐらかしていたが、配置を変えたり大きさを調整したりしながらおもしろがっていた。紙に書いていたころは「書いて楽しむ」という姿は見られなかったが、入力することで「ノートまとめを自分なりに楽しむ」姿が出てきたのではないかと感じた。

自習の際、人物のまとめ、国のまとめといった込み入った内容も課題に出せるようになった。テンプレートを使うことでまとめ方の見通しが持て、入力することで書きの負担が軽減されたこともあり、かなりの量をこなせるようになっていった。

## ○中学1年時の活動の具体的内容

⑥学び方の移行を支えるツールとして→「OneNote」「PowerPoint」「メッセージ」を活用



⑦遠隔での学びを支えるツールとして→「OneNote」「エクセル」「ワンドライブ」「メッセージ」「safari」「漢字検定読み仮名特訓4級～8級」「漢字ドリル2」「NewHorizon ドリル」「中学1年理科」「ロジカル記憶中学理科」「中高生の日本史」「中高生の地理」を活用



⑧紙媒体の課題との関わりを支えるツールとして→「PDF Connoisseur」「タッチ&リード」



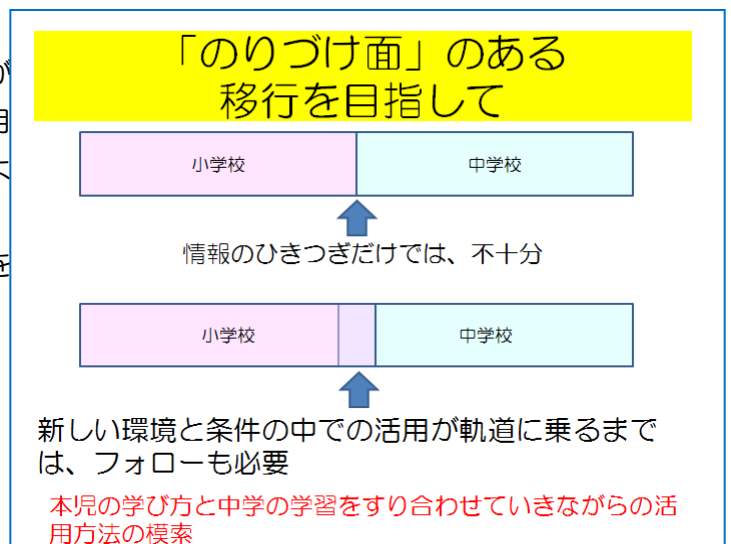
## ○対象児の事後の変化

⑥を通じて、学び方の移行を支える

小学校時代の状況から、ICT の活用は、本生徒にとって学びのスタートラインに立つために必要だと思われたが、彼が進む中学では、これまで ICT を活用して特別な支援を必要としている生徒へ学習支援を行った経験がなかった。そこで、事前の情報共有だけでなく、入学後も具体的な場面の中での手だての共有や機器の使用への支えが必要になると考えた。

そこで、通常行っている移行支援に加え、松江市が取り組んでいる小中一貫の取り組みに位置付け、4月以降も継続的に機器の使い方等のフォローが行えるよう、年度末のところで両校の管理職に承認を得た。

担当者同士で予定を確認しながら、放課後の時間を使って情報交換と、具体的な機器の使用方法などの相談を行うなど、のりしろのある移行支援を目指して取り組んできている。



### ひきつぎと申し入れの内容

- 読み、書きともに特異的な困難があり、機器を使用して補いながら学習してきている。
- 本人、保護者ともにそうした学習の継続を希望している。
- 高校進学也希望もあり、入試に際しては機器の使用について配慮申請を行いたい。そのためにも中学でも日常の学習の中で活用させてほしい。



具体的な取り組み

☆これまで行ってきた学習方法についての紹介

- OneNoteによるノートテイク(上記参照)
- アプリや動画を活用しての教科学習(魔法のワンド成果報告書参照)

☆機器の使い方のレクチャー

- 対象児童が使っている Windows タブレットと iPad について、基本操作とアプリの使用方法をレクチャー

☆中学の学習内容に即した活用方法の検討と提案

- OneNote で、中学の教科ごとのノートを作成し、タブやページの使い方について伝達
- PowerPointのスライドマスターの機能を使ってのワークシートの作成

⑦を通じて、中学の学習内容に即した学び方の選択肢を広げる

中学での一学期の経験が終わるころ、対象生徒には、強い葛藤が生まれていた。

- わかっているから、間違えたり書けなかったりすると、くやしい。
- 内容がいっぱいになっても、ちゃんと忘れないように勉強したい。
- **でも、どうしたらいいかわからない。**



1 学期の学習を振り返り、夏休みにつけたい力を話し合った。

夏休みの宿題はチャンス!!

休み中は、新しい課題に進まない長い期間がある

- じっくり方法を試せる
- 繰り返し、効果を実感できる
- 相談、修正しながら定着させていく時間がある

二学期以降の学びやすさへ生かしていく



教科	1学期の学習から	夏休みにつけたい力
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 読解はまだ一人では難しい</li> <li>• 漢字の力が自信と支えになった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 漢字の力をより確かにする。</li> <li>• 「読み」を優先して取り組む</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 内容はよく理解していた</li> <li>• 自分の書いたものが読み返せない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 数式パネルの入力方法になれる</li> </ul>
理科 社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 内容はよく理解していた</li> <li>• 用語が多く、混乱することがある</li> <li>• 「問われ方」「答え方」に慣れず、わかっても答えられないことがあった</li> <li>• 時間内に多くの問題をやり終えることが難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 具体的なイメージを持ちながら、事柄と言葉を一致させていく</li> <li>• 「問い」への答え方になれる</li> <li>• 一定量の問題にまとめて取り組み、やり終える</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リスニングや構文の組み立ては、よく理解していた</li> <li>• 単語の綴りが不正確</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 単語の綴りの練習に取り組み、定着を進めるとともに練習方法になれる</li> </ul>

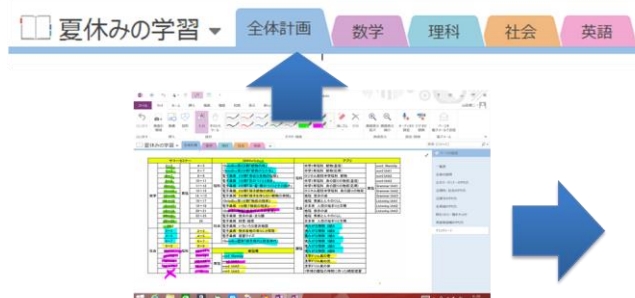
☆遠隔でのサポート

Onenote・メッセージ・ワンドライブでサポートのフレームを共有した。



- a) 方法の共有 → アプリの使い方、記録の仕方など
- b) 「困った」への対応 → 動画や note で質問に答える
- c) 進捗の共有 → チェックリストを共有して、見通しと意欲づけ

※アカウントを共有することで、ノートやクラウドを共有



一覧表
全体の説明
①サマーセミナーのやり方
②理科、社会のやり方
③漢字のやり方
④英語のやり方
終わったら一覧をチェック
英語単語帳のやり方
チェックシート

ノートそのものを共有できるので、連絡・記録に活用

## 具体的な取り組み

### a) 方法の共有

- OneNote に教科ごとのページを作成し、アプリの使い方や学習の進め方を共有
- スクリーンショットや動画を使うことで、確認しやすく

### b) 「困った」への対応

- 学習を始めてからの「困った」へは、メッセージやOneNoteを使って遠隔で対応



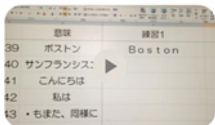
アプリの選択読み上げは初めてだね。わからなくなったら、動画で確認しようね。

情報を必要に応じて確認する体験

3回の練習、セルを移動せずにやりたい。そのほうがやりやすい。でも、長い単語だと、セルの中におさまらない。いちいち大きさを变えるのも大変。いろいろ。

英語のファイル、こうすると、全部入るよ。

セルの書式設定で、「縮小して表示」させることができるよ。動画を送るね。



	意味	練習1
170	1番好きな、お気に入りの	favorite favorite favorite
171	大きい	big big big
172	それは (が)	it it it
173	レストラン	restaurant restaurant restaurant
174	標識、標示、看板	sign sign sign
175	すし店	sushi bar sushi bar sushi bar

ほんとだ。これは便利!!

「求める」→「応える」の経験

練習しよう!

テキストの写真がうまく撮れなくて、入力しにくいよー

「台形補正」ができるよ



スタート

結構うまくいった!



OneNote やメッセージを共有しての関わりは、リアルタイムで対応しにくいというデメリットもあるが、共有したものをあとで確認しやすいという良さがあった。

「うまくいかない」で終わるのではなく、「求める」ことで「応えが返る」という経験を積むことで、自分の思いを周囲に働きかけていくことの有効性についても感じる経験につなげていきたいと考えた。

それでもすれちゃうことがあって、いろいろ。

横に解答欄のようにいれてみたら?

これなららくらく

「求める」→「応える」の経験

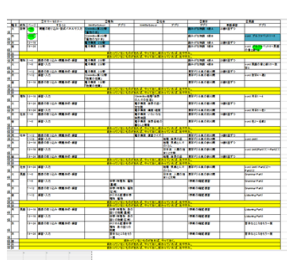


### c) 進捗の共有

- 取り組む内容について、最初は日付で割り振った予定を作成し、終わったらチェックを入れていくことを確認した。
- しかし、取り組み始めてみると、「内容を固めて取り組みたい」「自分で今日やることをきめたい」という要望が出てきた。
- 途中から、内容の一覧にして、終わったものにマーカー

計画表の通り最初はやったけど、あれこれやるより、固めてやった方がやりやすいみたい。

日付で割り振らず、内容一覧にしてみようか?



で印をつけていく方法に変更した。

※平日の夜、井上の手が空いた時間に「今から見るよ〜。同期しておいてね」とメッセージを送ってから対象生徒のOneNoteのアカウントを井上の端末から開いて確認した。

※進捗状況を見て「今日はすごく進んだね」「単語、後少しになってきたね」など、声をかけることを続けた。



これだとわかりやすい。アプリはすぐできるから、あとでまとめてやろう。

自分なりの「見通し」を持って取り組む



☆取り組みのポイント

- a) 想起を強化 → 難易度を変えたり、「選択」を取り入れたりしながら、想起の体験を重ねる
- b) 入力を活用 → 数式パネルの使い方や、入力を通じてスペルの練習をしていくことで、得意な方法を使って学習していく方法を広げる
- c) イメージ化して学習 → 動画を活用して、学習内容をイメージ化していくことで、理解の定着をはかる
- d) 答え方になれる → 上記の方法を組み合わせることで学習していくことを体験する

具体的な取り組み

a) 想起を強化  
0から思い出しで答えるのではなく、「選ぶ」からスタートできるアプリを活用すること



漢字検定「読みがな特訓」4級〜8級  
・下のひらがなから選んで答える

漢字ドリル2  
・読みを入力して答える

NewHorizonドリル  
・word, reading, grammarを「選択」からスタートして解答していく。  
・教科書準拠で、学習した内容に沿って進められる。

難易度を変えて、想起の練習

「選ぶ」からスタートすることで、覚えやすく

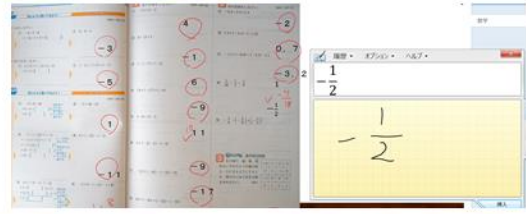
で、取り組みやすくしていった。また、同じ教科の課題に取り組むときも、「選択」→「入力」というふうに難易度を変えて取り組むことが出来るものを組み合わせ、想起の体験を重ねていった。

b) 入力を活用

一学期に「書きの困難」に関わり苦労した課題に対して、手書き以外での解決を目指した入力方法になれるように取り組んだ。

- ・数式の「書き」の課題に対して → 数式パネルを活用
- ・英語の単語の綴りの習得に向けて → excel を活用

サマーセミナーを画像でとってOneNoteへ!!  
数式パネルで答えを入力



入力方法に慣れて、2月は以降の活用を広げる

エクセルで単語帳  
・エクセルで入力して綴りの練習

	意味	練習1
170	1番好きな、お気に入りの	favorite favorite favorite
171	大きい	big big big
172	それは(が)	it it it
173	レストラン	restaurant restaurant restaurant
174	標識、標示、看板	sign sign sign

苦手な単語の綴りを覚える方法を広げる

c) イメージ化して学習

新しい言葉や難しい概念が多く出てきており、授業中はわかっても後で混乱することも出てきていた。小学校時代から活用していた動画による説明のサイトや、動画を手掛かりに問題に答えていくサイトを活用す

ることで、具体的な内容をイメージしながら学習できるようにした。

NHK for school  
 ・一学期学習した単元を視聴

学習内容をイメージを持ちながら整理

NHK for school 「電子黒板」  
 ・「自習モード」を活用

動画を手掛かりにしながら、問いに答える

d) 答え方になれる

試験という目標に向かっては、答え方になれることも求められる。取り組みやすさを考えて「単元ごとに問題が固まっている」「読み上げが可能」「選択して解答できる」アプリを複数とりあげて、演習として活用した。

a~d の視点を入れて夏休みの課題を組んでいった結果、かなりの量になった。その上、二学期の活用を見越しての新しいスキルにつながる部分も入れていったため、課題によっては相当時間もかかったようだ。それでも、途中で投げ出さず、最初に計画した内容については、全てやり遂げることが出来ていた。

取り組む中で「4月のところがわかってない。損したな」と自分の学びを振り返ったり、「月曜休みだから土曜日に頑張っておく」と先を見据えて計画したりしての発言も聞かれ、意欲的に学ぶ様子が見られた。

⑧を通じて、紙媒体の課題とのかかわりを支える

中学での大きなハードルの一つが「試験」だった。紙で出題され紙に書いて答えるという形は、本生徒にとって課題が大きい。そのことについては、入学前から情報の共有をしていたものの、教科担任制ということもあり、一学期の中間テストでは一教科で介助の先生による読み上げが認められただけだった。

また、日常の課題についても、提供されるものは紙媒体のものが中心になる。情報量を考えても、そうした紙媒体のテキストとの関わりも、大きなハードルになっていた。

- ・わかっているのに読めないのが答えられない
- ・わかっているのに書けないのが答えられない

という体験は、対象生徒の中に多くの葛藤を生み、強く自分から「自分の学び方」を求めるようになった。

中学側もその声を丁寧に聞きながら、校内で何度も支援会議を開き、対応を検討していき、2学期からは全ての教科の試験で読み上げとパソコンを使用するの解答が認められた。また、授業でのタブレットの使用も、全ての教科で認められた。

具体的な取り組み

☆テストをサポート

テストの読み上げについては、以下のような変遷をたどっている。

理科 中学1年  
 中学理科 ロジカル記憶

中学1年理科・ロジカル記憶 中学理科  
 ・単元ごとに問題がまとまっている  
 ・選択読み上げができる

中高生の日本史・地理  
 ・内容の塊から選べる  
 ・選択で解答できる

「問い」→「答え」になれる

試験の変化

教科	1 学期中間		1 学期期末		2 学期中間・期末			
	読み上げ	パソコンの使用	教科	読み上げ	パソコンの使用	教科	読み上げ	パソコンの使用
国語	△	×	国語	○	○	国語	○	○
数学	×	×	数学	×	△	数学	○	○
理科	×	×	理科	×	○	理科	○	○
社会	×	×	社会	○	×	社会	○	○
英語	×	×	英語	×	×	英語	○	○

- **介助の先生がついて読む**→読んでほしい場所や速さをお願いしないと調整ができない。  
↓ 「人が付くのではなく、音をつけておいてほしい」
- **PowerPoint にテストの画像をはりつけて、そこに音声を張り付ける**→再生スピードが調整できない。  
↓ 「時間がかかってしまう。人の声よりも機械の声の方が分かりやすい」
- **タッチ&リードで読む**  
「多少の読み間違いがあっても、この方が分かりやすい」  
「解答も同じアプリの中でできるので、助かる」



タッチ&リードへの移行は2学期末からで、まだ十分に本人も慣れていない上、試験のデータのレイアウトなども課題がある。しかし、色々と試行錯誤して本人にとって一番取り組みやすい方法が見えてきたところなので、今後は「スムーズな活用」にむけた取り組みが必要になると思われる。

### ☆ドリルの課題をサポート

本生徒が、ドリルの課題に取り組もうとすると、「読み上げ」と「入力」ができることが前提条件として必要になる。

そこで、縦書きの国語については「タッチ&リード」、他の教科については「PDFConnoisseur」にドリルのデータを取り込んでの活用を始めた。

どちらのアプリも、音声の速度やテキストのフォントがスムーズに調整できるため、使いやすい様子がかうかがわれた。

(データ化については、個人購入のドリルを使い、保護者と一緒に行った)



### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ○報告者の主観的気づき

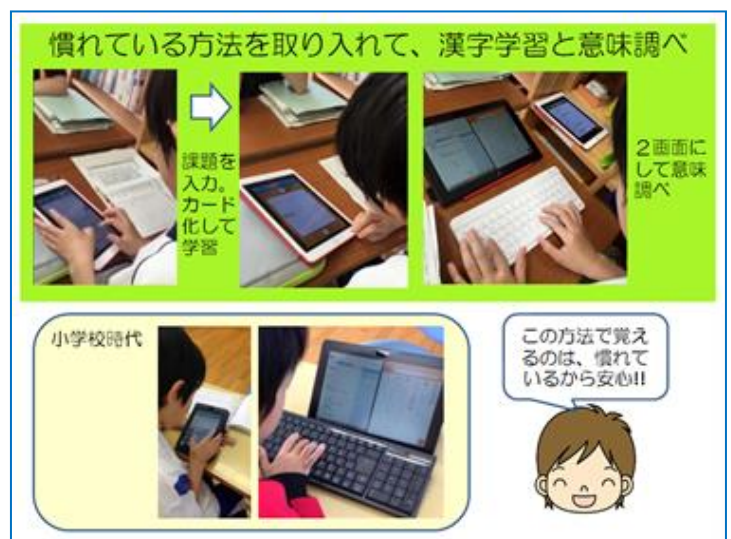
- ☆小・中の連携した取り組みができたことが、対象生徒の学び方を尊重する支えになったのではないかと
- ☆課題意識や必要感から出発したことで、学習意欲の高まりや継続が見られたのではないかと

#### ○主観的気づきに対するエビデンス

- 小・中の連携した取り組みに関して

入学当初は、やはり急激な環境の変化にかなりとまどっていた様子で、以前のような適応の悪化も心配された。また、受けいれる中学の側も試行錯誤しながら進んでいた段階だったため、見通しの共有ができにくい時期もあり、強い不安感を訴えることもあったが、小学校と同じ方法で学習をスタートしてくれた教科があったことが、本生徒には大きな安心感につながった様子だった。

また、入学当初は、週一回程度、2月現在も、新しい手だてを導入する際や、課題が出てきた際に、放課後の時間を合わせて情報共有を継続してきていることも、この取り組みの必要性を小・中ともに感じているからだと考える。



・必要感からの意欲の高まりと継続が見られたことに関して

6年生の頃

安心できる関わり  
安心できる学び

自分への自信と人への信頼を取り戻す  
「方法」を得る

当時の状況からは「安心感のある学び」が何より必要だった時期だと思うが、一方で「求めなくても得られる」環境だったことも否めない。

中学校時代

学習への強い意欲  
葛藤場面の増加

「こうしたい」「ここで困っている」という自発的な欲求から自分の学び方を構築していく

中学に入り、実際に学習を始めて、「これはできそうだ」「自分にはわかる」と感じたからこそ、自分の学び方への要望は強まっていった。一学期末には、保護者と相談しながら「こんなふうに学びたい」という要望も出している。

夏休みの取り組みでは、かなりの課題量だったため、3時間くらい毎日学習していた。大きな負担だったと思うが、1学期の経験から、「つきたい力」を確認してスタートしたため、最後までやりきることが出来ていた。

2学期に出てきた課題から、下記のように冬休みも遠隔での宿題の取り組みを行ったが、夏休みの経験もあり、リストを見てその日のうちに取りかかり始めるなど、意欲的な取り組みが継続している。

学校があるときより、大変だよ!!  
ぶつぶつ。



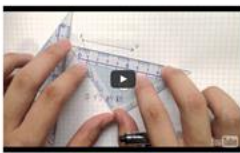
毎日、3時間くらい、文句を言ったり怒ったりしながらやっていますよ。でも「やらない」とは言わないですね。どうやったら早くできるかとか、いろいろ考えてみたいです。



### 夏休みの取り組みへ+α

数学も言葉が増えてきた  
予習がしたいけど、文字だけは  
つらい

動画とWeb問題集の活用



<http://www.eboard.jp>



<http://nll.weblike.jp/>



### 夏休みの取り組みへ+α

覚えることがいっぱい  
答え方がわからないことがある

解答する経験を増やして見通しを支える



### 【今後の見通し】

○関わりの変化について

激しい不適応と深刻な学習空白を抱えていた2年前から、対象生徒は大きく成長してきた。丁寧な支えが必要だった時期から、少しずつ「自分で学ぶ」姿が増えてきたと感じている。「担任→小・中の連携した取り組みの中で→地域の支援者の一人として」と、井上との関わりも変化してきた。

今後も対象生徒からの求めに応じた関わりは継続するが、より「自己選択」「自己決定」の場面が増えるようなサポートの在り方を模索していきたい。

自分の学び方の確立

「こうしたい」という  
欲求

「できる」という自信  
と見通し

学び切る見通しの中での  
繰り返しの繰り返し

学ぶことへの安心感

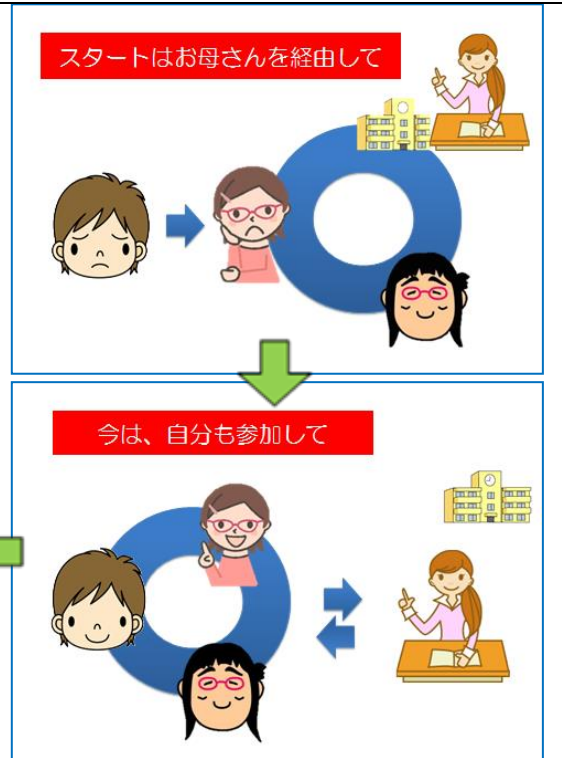
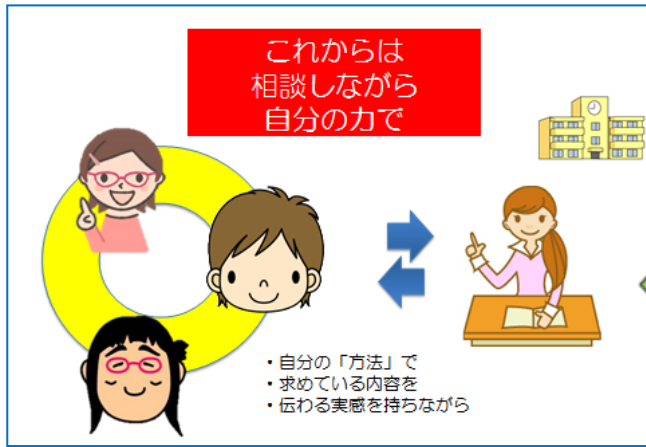


イマココ



○主体的に交渉できる姿を目指して

スタートは、母親を介しての意思伝達だったところから、一緒に相談して考えながら要望を伝えることが出来るようになってきている。思いはしっかり持っている子であり、今後は、「相談しながら自分の力で伝えることができるようになることを目指していきたい。



○中学2年の学習がスムーズにスタートできる環境を目指して

- ・対象生徒の学び方が日常の中でも共有されていくために

試験時だけでなく、日常の宿題も特性上の負荷がない形で行う必然があることの理解を広げ、学びの積み重ねが保障されていくために、「宿題の逆提案」を行う。曜日ごとに教科を固定し、内容も「平日はアプリとデータ化したドリル」「週末は動画を活用した予習・復習」と決めておくことで、取り組みやすさと共有しやすさにつなげていく。



カレンダーに取り組む内容をシールで示す。やったらマジックで丸をつけることで、進捗を共有しやすく。

動画教材はリストにしておき、授業の進度に合わせて見終わったらマジックで丸をつける



ドリルのテキスト化やデータの取り込みがスムーズに行えるように、スキャナやメモリーなどの整備と使い方の共有を、保護者や中学と相談しながら進めていく。(現在は井上の私物を使用)



複数ページを一度にスキャンできるドキュメントスキャナ

ネット環境が使えない時や重いデータを共有する際に便利な Lightning 端子搭載の USB メモリー

